

明石市立天文科学館

井上 毅

〈明石市立天文科学館 学芸員 〒673-0877 明石市人丸町 2-6〉

e-mail: inoue@star.nifty.jp

明石市立天文科学館は、東経 135 度日本標準時子午線の真上に建つ「時と宇宙の博物館」です。1960 年 6 月 10 日(時の記念日)に開館し、今年は 50 周年を迎えます。(岡山の天体物理観測所と同級生です。)鉄筋コンクリート造り、延べ床面積 3,030 平方メートルで、直径 20 メートルのプラネタリウムドームを含む 4 階建ての展示棟と、高さ約 53 メートルの高塔があります。高塔上部には、展望室と天体観測室があり、塔頂に大時計が取り付けられています。阪神・淡路大震災では、プラネタリウムを除くほとんどすべての設備が甚大な被害を受けましたが、3 年 2 カ月の工事を経て復旧しました。特徴的な外観から「時のまち明石」のシンボルとして、また兵庫県の天文愛好家の拠点として多くの方々に長年愛されてきました。建築的にもユニークな構造であることから国の登録有形文化財にもなっています。ここでは当館の見どころを三つ紹介しましょう。

①子午線のこだわり

地図をじっくり眺めると明石市立天文科学館の



図 1 明石市立天文科学館外観。

位置は東経 135 度子午線の位置から 120 m ほどずれています。これは当館の位置が天体観測によって決定した天文経度の東経 135 度上にあるためです。時刻の基準になる子午線の位置を表示するために、わざわざ天体観測を行って天文経度の東経 135 度の位置を調べたのです。測地経度とのずれは明石のこだわりです。なお日本標準時子午線の位置を決定するための天体観測は 1928 年と 1951 年二度実施されました。観測に使用したザルトリウスの経緯儀とバンベルヒの子午儀は明石市の指定文化財となって館内に大切に展示されています。(なお当館には時を守る戦士シゴセンジャーというヒーローがいます。明石の子どもたち限定で?大人気です。)

②「懐かしくて新しい」プラネタリウム

当館に来館される方の大半がプラネタリウムを目当てにしています。当館のプラネタリウム投影機はカールツァイス・イエナ社の機械式プラネタリウム (UPP23/3)。国内現役最古にして唯一の機種です。昔ながらのマニュアル操作、生解説のスタイルが評判です。また、補助投影機を駆使し、最新の天文学の研究成果を反映した動画映像を用いた解説も挟み込んでいます。こうした取り組みが評価され、2009 年の朝日新聞の読者アンケートではプラネタリウムの人気第一位になりました。懐かしい要素と新しい要素のカクテルが当館のプラネタリウムの魅力だと思ってます。

③リニューアルした展示室

開館 50 周年を迎えるにあたり 3 階と 4 階を中心に展示の更新を行いました。3 階フロアは、「子午線のまち・明石」「天文ギャラリー」「時のギャ



図2 プラネタリウム (背景の星は合成).



図3 天文学の歴史を学ぶゾーン.



図4 日時計の収集も行っている.



図5 「時の展覧会 2010」の様子.

ラリー」「天体観測資料室」「特別展示室」「天文サロン」の六つのゾーンに、4階コミュニケーションフロアは「日時計広場」と「キッズルーム」の二つのゾーンに分かれます。詳しくは当館のwebサイトをご覧ください。(http://www.am12.jp/)。なお、新設した特別展示室では特別展「時の展覧会 2010」を開催。90年前の1920年(大正9年)に東京教育博物館(現 国立科学博物館)で開催されたいへんな人気をよんだ「時の展覧会」紹介。当時出品されていた実物資料や同等の資料、関連資料など貴重な展示品約60点を国立科学博物館や国立天文台天文情報センターアーカイブ室、図書室など関係機関、関係者の協力により時や暦に関する天文資料の展示を行いました。また同展覧会を契機に誕生した「時の記念日」についても紹介し、好評でした。

明石は明石海峡に面し、タイ、タコなど海の幸にも恵まれた風光明媚な素敵な街です。お近くにもいらっしゃることがありましたらぜひお立ち寄りください。